

竜雲舜虹苑は地域の皆様の心と心をつなぐ虹の懸け橋でありたいと願っています。

「旅は道連れ世は情け 袖振り合うも他生の縁」

当寺は毎年三回、有志の檀家さんと共に団体参拝旅行に出掛けます。いわゆる「団参（だんさん）」です。時期的には、一、三月頃の早春と十月の秋に出掛けます。早春の時期は日帰り旅行で、秋には二泊三日くらいの行程で参ります。

秋の団参は浄土宗祖法然上人所縁の寺を巡る「法然上人二十五霊場」参りを中心に、有名寺院や博物館、美術館などをコースに取り入れた企画を用意しています。二十五霊場参拝は寺として昨年秋季に三回目の満願を迎えました。ご同行の檀家さんの中で数人三回満願されたお方もいらっしゃいます。本当に頭が下がります。当寺の団参は何と言っても道中の宴会を抜きには語れません。

「しつかりお寺参りして、そのお蔭を頂き、旅行をしつかり楽しむ」をコンセプトにしている当寺の団参では、旅館やホテルを決めるにあたって、宴会場にステージがある宿泊先を第一条件としています。

昼間しつかりお寺参りをしてお念仏を申し上げ（訪れたお寺では参加者全員大きな声で勤行をします）、元気にお寺参りが出来た事への充実感や送り出して頂いた家族への感謝などを充分感じながら、その勢いで夜の宴会に突入します。

宴会では、日頃芸に磨きをかけた方々が、衣装持ち込みで日本舞踊や柗踊りやカラオケやらと次々にお座敷芸を披露し座を盛り上げます。私も時々強制的にステージに上げられます。

二時間の宴会では、皆さん大笑いし日常を忘れてストレスの発散にもなっているようです。

宴会の最後に必ず、「星影のワルツ」のメロディーに当寺オリジナルの替え歌を載せた「清凉院 法然寺の歌」を皆で手を繋ぎ輪になって合唱して締め、来年も元気に参加しましょうと互いに誓い合いながらお開きになります。

そして翌日はまた、真面目にお寺参りを再開する。このメリハリが何とも言えない楽しい団参になっていて、毎回四〇名を超える参加者が集まるのも判るような気がします。

今回は当寺の団参をご紹介させて頂きました。

「清凉院 法然寺の歌」（星影のワルツのメロディーで）

一、高縄（たかなわ）平野 瀬戸の海 二、両手合わせる 幸福（しあわせ）を

歴史を重ねた 法然寺 教えてくれた 法然寺

南無阿弥陀仏 阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏

幾たび季節が 移ろうと 心に刻もう 幸せを

花咲く明日は 巡りくる 未来（あした）もつづくよ 慈悲心

今年も響くよ 除夜の鐘

愛媛県松山市 法然寺 住職 岡本好司

ケアマネジャー便り

ケアマネジャー 秋友 史絵



相談協力員懇話会



高齢者支援推進事業①
(仏生山コミュニティにて体操)



高齢者支援推進事業②
(仏生山コミュニティにて調理)



若宮地区のサロン活動へ

ケアハウス便り

ケアハウス

主任生活相談員 大本 徳子



1月18日に香川県老人福祉施設協議会にて、「ケアハウスで暮らしたい」というテーマで事例発表をしました。



今年2月に入り、雪が積もる日があり、職員総出で雪かきをしました。

番外編



おやつ作り(甘酒)



鏡開き



書初め大会

苑内行事



「子どもSOS仏生山」
よりお礼の来苑



浄願寺様住職の法話



節分祭



「橋本タカ子様の昔話が絵本になりました」

以前、当紙において長期連載していた「おばあちゃんの昔話」の作者、橋本タカ子様の三谷三郎池についての昔話が絵本になりました。三谷町在住の太田和代様の提案で、同級生の石井トシ子様挿絵を依頼し「三谷のじやの話」の絵本が完成した報告に来苑されました。太田様は現在、紙芝居の読み聞かせを地域でしており、紙芝居にしたものが、多くの子供達や大人たちに読んでもらえるような絵本を今後も作っていきたいと話されました。

2月13日の大雪の日に舜虹苑より西方面の平池手前の坂道で、舜虹苑の「競輪リフトカー」が立ち往生して大変ご迷惑をおかけしました。また、その時に車の誘導をして頂いた方へ、この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

社会福祉法人竜雲学園
竜雲舜虹苑

特別養護老人ホーム
短期入所サービス
通所介護サービス
認知症型通所サービス
訪問介護サービス
老人介護支援センター
ケアハウス

〒761-8078
高松市仏生山町甲 3100 番地 2
TEL: 087-888-5800
FAX: 087-889-1004

